

外国語科 年間指導計画

(令和6年度～)

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	英語コミュニケーションⅡ	4	2年	

使用教科書	副教材等
LANDMARK English CommunicationⅡ(啓林館)	サブノート、ワークブック、DataBase4500 Hyper Listening Pre-Intermediate、改訂版Jet Reading LevelⅠ

科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第Ⅰ款の(Ⅰ)及び(Ⅱ)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第Ⅰ款の(Ⅲ)に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨

知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画

時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法	
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W			
		CAN-DO ID												
		領域	NO	記号										
4・5	3	I	3	ア	A2	自分が住む町の問題とその解決策について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを詳しく書くことができる。	知思態	知思態			知思態	授・定	PT/PFT	
6	2	W	3	ア	A2	野生動物の絶滅を止めるための解決策を、情報や自分の考えを論理性に注意して、詳しく話して伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT	
7	1	I	3	イ	A2	自分が驚いた日本文化について、情報や自分の考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定	PT	
9	4	W	3	イ	A2	日本の食料自給率について、情報や自分の考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	知思態	知思態			知思態	授・定	PT	
10	8	P	3	イ	B1	環境保護、持続可能社会の問題について、情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT	
11	9	I	3	イ	B1	地産地消について、情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる	知思態	知思態			知思態	授・定	PT	
12	6	P	3	イ	A2	自分が行ってみたい世界遺産について、その歴史と特徴を情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。	知思態	知思態			知思態	授・定	PT	
1・2	10	I	3	イ	B1	人工知能の利点と危険性について、情報や自分の考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT	

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

--

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅱ	2	2年	

使用教科書	副教材等
FACTBOOKⅡ English Logic and Expression（桐原書店）	英文法・語法Engage（いっずな書店） Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons（美誠社） Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons Workbook

科目の目標
英語学習の特質を踏まえ、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第Ⅰ款の（Ⅰ）及び（Ⅱ）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第Ⅰ款の（Ⅲ）に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、日常的な話題や社会的な話題について、英語で話したり書いたりして、その情報や自分自身の考えなどを適切に表現したり伝えあったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画															
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況 の評価の記録					評価 場面	評価 方法		
		主な領域		主な領域において何ができるようになるのか											
		CAN-DO ID					CE FR								
		領域	NO					記号							
4 ・ 5	4	W	2	イ	A2	自分の住む地域の問題について、問題解決型のパラグラフを書くことができる。 〔文型、時制、完了形〕						知思態	授・定・他	PT/PFT	
6 ・ 7	TL 2	P	2	イ	A2	野生動物の絶滅の問題について、問題解決型のパラグラフを書き発表することができる。 〔助動詞、受動態〕						知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT
9 ・ 10	TL 3	W	2	イ	A2	環境保護、持続可能社会の問題について、原因・結果型のパラグラフを書くことができる。 〔不定詞、動名詞〕						知思態	授・定・他	PT/PFT	
11 ・ 12	9	W	2	イ	A2	地産地消について意見文を書くことができる。 〔分詞、関係詞〕						知思態	授・定・他	PT/PFT	
1 ・ 2		I	2	イ	A2	人工知能の利点と危険性について、自分の意見を支持する理由や具体例をあげながら議論することができる。 〔比較、仮定法、話法、否定〕						知思態	知思態	授・定・他	PT/PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）
※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄